

平成29年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

第4学年

教科	指導上の成果と課題の分析→	授業改善の具体的な方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話を最後まで聞くことや、話の要点が何かを聞き取ることに課題がある。また、相手や目的に応じ、言葉を選んだり分かりやすく伝えたりすることには、個人差が見られる。【話すこと・聞くこと】 ・昨年度末の達成率は74%であった。既習漢字の定着については、個人差が見られる。今後も定着を図るために、反復練習をする必要がある。【言語事項】 ・読書活動に積極的に取り組む児童が多く、中心人物の変化や説明文での筆者の意図を読み取れる児童が多い。反対に読書活動に消極的な児童は、「読む能力」が低い傾向にある。【読むこと】 	<ul style="list-style-type: none"> ・話形の例を示し、根拠や理由を筋道立てて伝える習慣を付けたり、音読の活動を積極的に取り入れたりして、発声力、表現力、傾聴力を高めていく。また、メモを取りながら聞く活動や、質問をしたり感想を述べたりする活動を定期的に取り入れ、聞く能力を高める。また、最後まで話を聞くように指導する。 ・定期的に小テストを行ったり、ドリル学習を計画的に行ったりする。既習の漢字は、普段の学習や宿題などの書く活動の時には必ず使うように徹底した指導を行う。 ・図書の時間を確保し、様々なジャンルの本の紹介をして興味を高める。物語文では、作品の設定や中心人物の変化、主題をとらえて読むこと、説明文では、要点や三段構成、筆者の意図をとらえながら読むように指導していく。また、ICT機器を活用して教科書を提示して書き込むことで、読むときのポイントを示す。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は83%であった。社会的事象の特色や相互の関連、そこに関わる人々の工夫について考えることができた。【思考・判断・表現】 ・提示された資料を活用して、必要な情報を集めて読み取ることができた。【技能】 ・人々の生活や良好な生活環境、安全を守るための諸活動について、思考してきたことが知識として身に付いていないところがあり、定着が必要である。【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実から考えたことの見聞交流や、自分の考えを書いて発表し合う学習を取り入れることで思考力・表現力をさらに高める。また、生活資料を効果的に使い、社会的事象を適切に捉えられるようにする。 ・ICT機器を活用して資料を提示し、視覚的に資料を読み取る際のポイントを示したり、使う資料を限定したりして、資料の基本的な見方を理解できるようにする。 ・健康で安心して生活できることについて、社会のしくみや構造を自分の生活を振り返りながら学習を進めていく。また、学習問題を解決するための調べ学習や意見交流を行いながら、知識の定着を図っていく。

算 数	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は83%であった。問題の解決について、根拠をもって筋道立てて考えたり説明したりする力に課題がある。【数学的な考え方】 ・昨年度末の達成率は93%と高かった。わり算の筆算を計算する力や、垂直や平行について、分度器や三角定規を使って正確に作図する力には個人差がある。【技能】 ・昨年度末の達成率は91%と高かった。しかし、垂直や平行、対角線、四角形の性質への理解が十分でない。【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・数が表す意味を考えさせたり、数、式、図、言葉などを関連付けて自分の考えを説明したりする活動を意識的に設定していき、自分の考えを整理して筋道立てて説明する力を付けていく。 ・習熟度別学習形態を効果的に活用して、理解の苦手な児童がじっくり考えられるように、個に応じた指導をしていく。また、それぞれの習熟度に適した問題を考え、設定していく。また、普段から様々な数に触れさせ、数感覚を養う。 ・ICT機器を活用して図などの視覚的な資料を提示し、図形について理解できるようにする。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の解決について、実験や観察から分かったことを表現し、まとめることに課題がある。【思考・表現】 ・昨年度末の達成率は94%と高かった。しかし、理科の専門的な道具を用いる実験が増えてきたため、正しい使い方を正確に身に付けさせる必要がある。【技能】 ・昨年度末の達成率は98%と高かった。基礎的な知識は、概ね身に付いている。【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察の結果のまとめ方について、表や図などの様々な表現方法を身に付けさせる。また、そこから考えられることや目に見えない事象について、図や絵などに表現して可視化していく力を付けていく。 ・問題解決型の授業を継続的に展開していき、実験方法を考える過程で、ICT機器等を活用し、確実に実験器具の使い方を理解して、児童が見通しをもって学習できるようにする。 ・実験や観察の結果のまとめや考えたことを伝え合う活動を意識的に設定し、さらに知識を深めたり広げたりできるようにしていく。
体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてをもち、それを達成するためにどのような工夫が必要かを考え、運動に生かそうとする姿が多く見られた。【思考・判断】 ・運動の技能に関しては、運動の種類や普段の外遊び等の経験などから、個人差が見られる。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の初めに単元を通しての学習計画を提示し、児童が見通しをもって、さらに進んで学習に取り組めるようにしていく。ゲームなどでは、チームで作戦を立てたり振り返りをしたりする活動を取り入れ、みんなで協力して楽しく学習を進められるようにしていく。 ・主運動の基礎となる動きを準備運動の中に取り入れ、運動感覚を身につけられるようにする。また、グループでの活動を取り入れ、協力して技能を向上できるようにする。さらに、ICT機器を用いて運動のポイントを押さえたり、自分の動きを客観的に見たりして、技能の向上につなげられるようにする。